

中村学園大学・中村学園大学短期大学部 広報誌

CELERY セロリ

2005
No.54



中村学園創立50周年記念講談・祝賀会開催

研究内容紹介 『投資決定論』

研究トピックス 『小学校での英語教育』

大学改革と産官学連携・地域連携

大学院 栄養科学研究科長・教授 太田 英明

長引く不況を背景に、平成十三年度文部科学省は大学改革による社会・経済の活性化方策を打ち出しました。現在、これに応じて種々の施策が実行されており、全国の大学が大きな変化の最中にあります。その内容は大きく三本の柱になっています。

第一に、競争的環境の創出・国際競争力の強化として、各大学で国際競争力があると評価された先端的分野に関して集中的に研究資金を助成する二十一世紀COEプログラムが発足しています。また、本学には密に関連しますが、各大学の特徴に応じて私学助成による研究の重点支援を行うとしています。さらに、大学ならびに大学の教員の教育研究の業績・教員の資質に対しては第三者機関によって評価する制度を導入し、大学の質の向上を図ろうとしています。

第二に、規制改革の推進・教育・研究の活性化として、設置認可を見直し市場原理に従って大学間に競争を行わせるとしています。自治体（官）と大学の連携・協力を強化し、大学内における官や企業との共同研究を強化しようとしています。

また、大学教員の兼職・兼業の弾力化ベンチャー企業（の育成）を進め、大学を活用した社会の活性化をねらっています。

第三に、人材育成の強化・社会の求める人材（の供給）として、厳格な成績評価等による教育機能の充実を図り、社会人の再教育（大学院）と起業家の教育育成を進め、専門職大学を創設し、社会のニーズに合致する具体的な政策が実施されています。

総じて、従来の大学が教育研究を牽引して社会から孤立し、大学内あるいは研究者間で完結していた教育研究の内容を、社会との関連を密にすることで社会の活性化を行う方向です。この方針の実現に向けて、平成十六年四月からは国立大学が独立法人となり、企業との連携あるいは産業創出を目的とした起業家養成など、一斉に、それぞれの特徴をもつ個性豊かな大学に変わろうと努力しているのが現状です。一面では国公立大学の私立大学化が進行しつつあるとみることができ、また、このように、産業の活性化、雇用改善、市町村の地域興しのため、産官学連携や地域連携が強く要望され、大学に期待が

寄せられています。

翻って本学をみると、その大きな特徴の一つは建学の精神にもありますように、出口を見据えた実学の教育研究にあり、家政学部を母胎に発展してきました。このため、栄養指導学、調理学を中心に実務家教員も多く、産官学の共同研究を通じて、社会との連携をとりやすい立場にあります。また教員の研究テーマも、従来の基礎研究に加えて、実用的な研究テーマが目立ようになってきました。今後、本学の特徴を活かした産官学連携や地域社会との連携がさらに進んでいくと期待されます。

しかしながら、産業界、官界、大学ともに人材養成・研究内容にはそれぞれに特徴があります。大学の目的は学校教育法五十二条にあるように、人材の教育と学問研究を深めることにあることは言うまでもなく、産官学連携・地域連携が進んでも、この社会的使命は変わりません。基本は、いつの時代においても社会的要請に応えることができる質の高い人材養成が、教育研究機関に求められていると思っています。



中村学園大学・中村学園大学短期大学部 広報誌

CELERY セロリ

2005
No.54

C O N T E N T S

リレーエッセイ 第17回 大学改革と産官学連携・地域連携	①
中村学園創立50周年記念講談・祝賀会開催	③
中村学園創立50周年記念事業報告	⑤
山元寅男顧問 瑞宝中綬章 受章	⑥
坂田利家教授 西日本文化賞(学術文化部門)受賞	⑦
大学院人間発達学研究科 入学試験のお知らせ	⑦
平成17年度入試結果	⑧
2～3月に実施される入学試験のお知らせ	⑧
研究内容紹介『投資決定論』	⑨
研究トピックス『小学校での英語教育』	⑩
福岡市地下鉄七隈線 開業	⑪
クリーンキャンパスキャンペーン	⑫
平成16年度後援会地区連絡会のお知らせ	⑫
イベント&ニュース	⑬
食物栄養科特別講演会 / 学園祭 / 留学生交流行事 / 薬膳公開講座 アジア栄養科学ワークショップ / 流通科学研究科セミナー / 表彰のお知らせ 研究助成・受託研究等採択状況 / 教員の出版物 フィギュアスケートジュニアグランプリ / 税理士試験 / 教職員の動き	

【今月の表紙】 東門設置

本年2月の地下鉄七隈線開業に合わせて、東3号館側に新しく東門が設置されました。
この東門の設置により、最寄の地下鉄別府駅(1番出口)から大学までは徒歩1分となり、
学生の通学がますます便利になりました。



中村学園大学は2003(平成15)年4月1日付で、財団法人大学基準協会より大学基準に適合しているものと認められ、正会員として認定されました。



努力の上に花が咲く
～おかげさまで50年～
そして、未来へ

中村学園創立50周年 記念講談・祝賀会開催

中村学園は平成十六(二〇〇四)年に創立五十周年という記念すべき年を迎えました。その節目の年に五十周年を祝うとともに、学園祖をはじめ多くの先達のご苦労とこれまで各界・各層から寄せられたご支援・ご協力に感謝を表し、学園に集う全ての人が結集して未来に向けてさらなる発展向上を期するため、昨年六月一日にマリオンメッセ福岡で開催した記念式典を皮切りに、学園祖ビデオの製作、「こころの詩集」、「五十年史」の発行、記念講演会の開催など数多くの記念行事及び事業を展開してきました。

そして一連の五十周年記念行事・事業のフィナーレとなる記念講談・祝賀会は、好天に恵まれた平成十六年十一月十二日(金)ホテル日航福岡で開催されました。祝賀会に先立ち午後五時から、講談師 神田 紅師匠による「学園祖中村ハル物語」と題した記念講談が行われました。ご来賓四百四十五名を前にハル先生の情熱的な生涯を綴る神田 紅師匠の熱く感動的な講談に、感激のあまり涙する方々もおられました。

記念祝賀会は、六百五十名のご来賓を百五十名の本学園教職員がお迎えして午後六時から始まりました。中村量一理事長の挨拶に引き続き、日本私立大学協会常務理事 原野幸康氏と上海中医药大学 嚴世芸学長からご祝辞を賜り、ご来賓代表による鏡開き、そして福岡県私学協会会長、学校法人筑陽学園理事長 新田光之助氏による乾杯で祝宴に入りました。



● ご祝辞 / 日本私立大学協会 常務理事 原野幸康氏



● 記念講談「学園祖中村ハル物語」/ 講談師 神田 紅師匠



● ご祝辞 / 上海中医药大学 嚴世芸 学長



● 理事長挨拶



● 祝賀会場 / ホテル日航福岡「都久志の間」



● 乾杯 / 福岡県私学協会会長・学校法人筑陽学園理事長 新田 光之助 氏

創立五十周年記念講談・祝賀会は、学園祖中村ハル先生による創設以来、本学園が多くの方々に支えられてきたからこそ今日があることの有難さをあらためて認識し、同時に本学園が引き続き果たすべき使命の大きさを感じる意義の深い機会となりました。

祝宴会場の正面ステージでは、大学のクリスタルハーモニー部による合唱や、ダイエーホークス王監督によるビデオメッセージの披露などのアトラクションが続きました。この間、ステージ横に設置された総プラチナ製の茶室で中村量一理事長がお手前を披露し、華やかなパーティーの中にも落ち着いた雰囲気包まれる瞬間もありました。アトラクションを締めくくる大学の和太鼓同好会による力強い演奏の後、藤本 淳学長が謝辞を述べ、祝いでたを西部ガス株式会社の遠藤恭介代表取締役副社長、博多人形師の中村信喬氏そして株式会社西日本シティ銀行の佐々木 克代表取締役専務の三氏にリードしていただき、祝賀会はめでたくお開きとなりました。

祝賀会には、本学園との国際交流提携先である上海中医药大学、遼寧中医学院職業技術学院、ハワイ大学リーワード校、セントフランシス・ハイスクール、オークランド・グラマースクール、オセアニア・インターナショナル・カレッジの各校代表者にもご出席いただきました。また、福岡の中華人民共和国総領事館総領事、アメリカ合衆国領事館首席領事、大韓民国総領事館教育担当領事もお招きし、国際色豊かなパーティーとなりました。



● 和太鼓同好会の演奏



● クリスタルハーモニー部の合唱



● 祝いでた / (左から)
博多人形師 中村信喬 氏
西部ガス株式会社 代表取締役副社長 遠藤恭介 氏
株式会社西日本シティ銀行 代表取締役専務 佐々木 克 氏



● 総プラチナ製茶室でのお手前

中村学園創立50周年記念事業の報告

学園創立50周年記念事業のうち、昨年10月から11月に実施された事業について報告いたします。

1 「こころの詩集」発刊



こころの詩集

学園創立五十周年記念事業の一環として「こころの詩集」が発刊されました。多くの学生、生徒から応募があり、各学校から選出された審査の先生方が全ての作品を厳正に審査した結果四十九名が入賞し、その中から最優秀賞に三陽高等学校の高倉昂弘君の「歩む」が選ばれました。

十一月二十九日(月)に大学において表彰式が行われ、最優秀賞、優秀賞に輝いた大学・短大生三名、女子中・高校生三名、三陽中・高校生四名が、中村量一理事長から表彰状と記念品を受け取り、改めて受賞の喜びをかみしめていました。

なお、「こころの詩集」は、学生、生徒、園児、教職員をはじめ学園関係者全員に配布されました。

大学・短期大学部からは下記の十二名が入賞しました。



表彰式

優 秀 賞

大学 家政学部4年 田所 加奈
大学 家政学部4年 大野 阿由美
短期大学部食物栄養科1年 吉田 有希子

佳 作 賞

短期大学部食物栄養科2年 吉村 文恵

入 選

大学 人間発達学部2年 樺島 信也
大学 人間発達学部2年 谷口 早紀
大学 人間発達学部2年 龍造寺 瑛子
短期大学部食物栄養科2年 今屋 未央
短期大学部食物栄養科1年 田中 麻智子
短期大学部食物栄養科1年 大塚 あすみ
短期大学部食物栄養科1年 木村 香菜
短期大学部家政経済科1年 藤本 薫

2 創立五十周年記念講演会 (第二回、第三回)



創立五十周年記念講演会の第二回を十月二十三日(土)、第三回を十一月二十七日(土)に、福岡市中央区天神のエルガラホール・大ホールで開催いたしました。この記念講演会は地域の皆様を対象として開催されたもので、全三回で合計千五百五名の方々にこ来聴いただきました。

各講演の内容は、下記のとおりです。

第 3 回



十一月二十七日(土)
「いのちの食紀行」
作家 立松 和平氏

第 2 回



十月二十三日(土)
「韓国人から見た日本」
拓殖大学国際開発学部教授、評論家 呉 善花氏

第 1 回



九月二十五日(土)
「詩人の心と科学の目」
「最新宇宙論の視座からいのちを考える」
鈴鹿国際大学短期大学部学長、理学博士 佐治 晴夫氏

山元寅男顧問 瑞宝中綬章受章



山元 寅男 顧問

永年にわたり教育や社会福祉、地方自治などの分野で活躍した人たちの功績をたたえる秋の叙勲、平成十六年十一月三日付に於いて、学校法人中村学園 山元寅男顧問（前中村学園大学・中村学園大学短期大学部学長）が瑞宝中綬章を受章されました。

山元先生は、一九五三年九州大学医学部卒業後、九州大学医学部助手、広島大学医学部助教授、米国ワシントン州立大学医学部研究員、新潟大学医学部教授、九州大学医学部教授を歴任。一九八五年から二期四年間、九州大学医学部長も務められました。本学へは大学院栄養科学研究科が開設された一九九〇年四月に、同大学院教授として着任、一九九一年四月から二〇〇二年十月まで中村学園大学・中村学園大学短期大学部学長を務められ、

二〇〇二年十一月から学校法人中村学園顧問に就任されておられます。

本学の学長時代には、ファカルティ・ディベロップメント（FD）の推進を第一に掲げられ、一九九一年の大学設置基準の改正に対応して、その年直ちに「教育改善委員会」を設置され、三十数回に及ぶ会議を経て、教育目標の明確化、その目標達成のための教科目の設定、カリキュラムの編成を実施、また一九九三年には、「自己点検・評価委員会」を設置し、教育目標達成の検証を行い、一九九五年にその結果を、教育と研究として発刊されました。その他にも、FD推進のための具体的方策として全教員参加による「教育ワークシヨップ」の開催、授業の改善に役立てるため他の大学に先駆けて、学生による授業評価制度を実施、全学的かつ組織的にFDを推進するための組織として、FD推進委員会を設置されるなど、本学における教育研究の質的向上に多大なる功績を残されました。

坂田利家教授 西日本文化賞（学術文化部門）受賞



坂田 利家 教授

十一月三日の文化の日に西日本新聞社が贈る「西日本文化賞」の第六十三回受賞者（学術文化部門）に本学栄養科学部学部長の坂田利家教授が選ばれました。

この賞は、学術・社会文化の分野で顕著な業績をあげ、西日本地域の文化発展に貢献した個人や団体に贈られるもので、昭和十五年に創設され、昨年までに個人や団体などあわせて三百十の業績に対して賞が贈られています。

今回の受賞は、食欲の調節に関する物質を発見するなど、生理工学の成果を取り入れた肥満症治療法を開発した功績が評価されたものです。

坂田教授の他に、学術文化部門では、九州大学大学院工学研究院の新海征治教授、社会文化部門では、筑前琵琶奏者の中村旭園氏、作家の古川薫氏、原爆の非人道性を訴えられてきた長崎の証言の会（団体）、世界に「博多」をアピールされてきた博多祇園山笠振興会（団体）がそれぞれ受賞されました。

プロフィール——
1936年生まれ。1967年九州大学大学院医学研究科博士課程修了。医学博士。九州大学医学部助教授、大分医科大学医学部教授を経て、2002年中村学園大学栄養科学部教授、2003年から栄養科学部長に就任

平成17年4月開設 大学院「人間発達学研究科(修士課程)」 入学試験のお知らせ

本学では、大学院に新しく、「人間発達学研究科(修士課程)」の設置認可申請をいたしておりますが、平成十六年十一月三十日付にて文部科学省から設置認可を受け、平成十七年四月から開設することとなりました。すでに認可後の昨年十二月に第二回目の入学試験を実施し、二名の合格者を発表しました。本年二月に第二回目の入学試験が次のとおり実施されますので、お知らせいたします。

出願資格・手続き等の詳細につきましては、本学入試課までお問い合わせください。
TEL 092-1851125 31

【人間発達学研究科(修士課程)】

昼夜開講制

募集人員 五名

出願資格

次の 1 のうちいずれかに該当する者

1 学校教育法第五十二条に定める大学を卒業した者または平成十七年三月までに卒業見込みの者
2 学校教育法第六十八条の二第三項の規定に基づき、大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者または平成十七年三月までに授与見込みの者
3 外国において、学校教育における十六年の課程を修了した者または平成十七年三月までに修了見込みの者
但し、大学卒業までの学校教育課程が十六年に満たない

国において大学を卒業した者は、これに相当する者とする。

文部科学大臣の指定した者

(昭和二十八年二月七日文部省告示第五号)

大学に三年以上在学し、本大学院研究科が指定する所定の科目及びその単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者

幼稚園教諭一種免許状を有し、

幼稚園で三年以上勤務した経験のある者

保育士資格を有し、保育所等

児童福祉施設で三年以上勤務した経験のある者

二十二才に達した者または平成十七年四月一日までに二十二才に達する者で、本大学院研究科の出願資格審査により、大学を卒業した者と

同等以上の学力があると認められた者

但し、出願資格審査を希望する者は、出願受付開始の三十日前までに入試課へ連絡後、所定の書類を提出すること

出願期間

平成十七年一月二十一日(金)～
一月三十一日(月)

選考日

平成十七年二月二十一日(月)

選考方法

左記の筆記試験、面接試験及び研究計画書等提出書類を総合して決定する。

試験科目		試験時間
I	専門科目	10:00～11:00(60分)
II	英語	11:30～12:30(60分)
III	面接	13:30～

専門科目
教育学(教育原理、教育社会学、教育方法学、教育史)、発達・教育心理学、教科教育、保育内容、児童福祉の中から1科目選択

合格発表

平成十七年三月三日(木)

入学手続

平成十七年三月二十四日(木)
入学金・授業料等一括納入

平成17年度入試結果

中村学園大学大学院

競争率は、受験者数/合格者数(小数点第3位以下を四捨五入)

研究科	専攻	課程	区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	競争率
栄養科学研究科	栄養科学専攻	博士前期課程	推薦	6	10	10	7	1.43
			一般(1次)		2	2	2	1.00
		博士後期課程	前期	3	0	0	0	—
流通科学研究科	流通科学専攻	修士課程	推薦	10	9	9	4	2.25
人間発達学研究科	人間発達学専攻	修士課程	推薦	5	2	2	2	1.00

中村学園大学(推薦入試)

学部・学科	専攻	区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	競争率
栄養科学部 栄養科学科	—	公募制	65	183	182	74	2.46
		併設校	25以内	25	25	24	1.04
人間発達学部 人間発達学科	幼児発達学専攻	公募制	36	121	121	46	2.63
		併設校	9以内	9	9	9	1.00
	児童発達学専攻	公募制	15	51	51	16	3.19
		併設校	5以内	5	5	5	1.00
流通科学部 流通科学科	—	公募制	15	23	23	19	1.21
		併設校	30以内	30	30	30	1.00
		指定校	50	64	64	64	1.00

中村学園大学短期大学部(推薦入試)

科	区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	競争率
食物栄養科	公募制	90	147	146	91	1.60
	併設校	15以内	15	15	14	1.07
家政経済科	公募制	10	11	11	10	1.10
	併設校	10以内	10	10	10	1.00
	指定校	105	136	136	136	1.00
	自己推薦	15	14	14	14	1.00
幼児保育科	公募制	110	226	226	125	1.81
	併設校	20以内	20	20	18	1.11

● 2～3月に実施される入学試験のお知らせ

中村学園大学大学院 栄養科学研究科(博士前期課程)

区分	試験日	募集人員	出願期間
第2次試験入学選考	平成17年2月15日(火)	6名	平成17年1月21日(金)～1月31日(月)

募集人員:推薦・第1次試験入学選考含む

中村学園大学大学院 栄養科学研究科(博士後期課程)

区分	試験日	募集人員	出願期間
後期試験入学選考	平成17年2月22日(火)	3名	平成17年1月21日(金)～1月31日(月)

募集人員:前期試験入学選考含む

中村学園大学大学院 流通科学研究科(修士課程)

区分	試験日	募集人員	出願期間
試験入学選考	平成17年2月15日(火)	10名	平成17年1月21日(金)～1月31日(月)

新設の人間発達学研究科(修士課程)の募集要項につきましては、本号の7頁をご参照ください。

募集人員:推薦入学選考含む

中村学園大学 流通科学部

区分	試験日	募集人員	出願期間
大学入試センター試験利用入学試験(後期日程)	平成17年度大学入試センター試験の成績を基に合否判定を行う 本学の個別学力試験は課さない。	3名	平成17年2月21日(月)～3月4日(金)

中村調理製菓専門学校

区分	試験日	出願期間
第4回一般、社会人入学試験	平成17年2月19日(土)	平成17年1月17日(月)～2月14日(月)
第5回一般、社会人入学試験	平成17年3月25日(金)	平成17年3月1日(火)～3月22日(火)

1日体験入学:平成17年1月30日(日)10:30～14:00、平成17年2月26日(土)10:30～14:00

中村国際ホテル専門学校

区分	試験日	出願期間
第4回推薦、一般入学試験	平成17年2月19日(土)	平成17年1月17日(月)～2月14日(月)
第5回推薦、一般入学試験	平成17年3月25日(金)	平成17年3月1日(火)～3月22日(火)

1日体験入学:平成17年1月30日(日)10:30～12:30、平成17年2月26日(土)10:30～12:30、平成17年3月27日(日)10:30～12:30

投資決定論

大学院 流通科学研究科 研究科長・教授 古賀 公治

私の研究の出発点となったものは投資理論です。第二次世界大戦後、米国の国内景気が停滞したため、企業の資本が大量に欧州へ流出しました。この大量のドル流出は米国の経済にとって由々しき問題となって1958年ドル防衛が実施されたのです。企業は海外投資が不可能となりました。しかし、企業は成長(投資)をしなければなりません。投資には大きく分けて 設備投資 研究開発投資 証券投資がありますが、国内経済の低迷の中、設備投資は好ましくない。研究開発投資も抑制気味でありました。証券投資にも売買益を求めるものもありますが、当時、株価が停滞的でそれも有利ではありませんでした。そのような環境の中で、企業が眼をつけたのが、他企業の買収でした。潜在的収益力が高く正味資産価値が高い企業で株価が安値に放置されている企業を見つけて買収をかける(M & A)が本格化します。それ以来、米国では時期により多少の変化はありますが、毎年3000件にも上る企業買収が、今日まで続いています。その際、現金での買収には巨額の資本が必要となりますが、株式交換など巨額の資本を要しない方法が取られました。ここで、難しい問題は企業の真の価値とは何か、企業の価値を評価することであったのです。ここでは株価がその企業の実態価値を示しているかどうか重要な問題となります。私が大学院に入学したのは1963年でしたが企業の実態(本当の)価値をどのように評価するかという問題意識から始めました。この評価方法は企業の将来の収益を現在に引きなおして評価するという割引率法が中心となったのですが、種々の方法

があり、国内外の政治経済その他の環境変化によって基準が変化します。それは主に企業などの機関が利用する方法でした。企業が他の企業を買収する場合の基準、機関投資家が証券投資を行う時の基準として開発されています。私は機関が使う手段を鵜呑みにして利用できるとは思いませんが、個人投資家の投資基準にもなり得るものがあると存在すると考えています。それについての勉強もまだ途上です。

今、国の年金制度は(むちゃくちゃな運用をしてきた結果)崩壊の危機を迎えています。今後、主流となる年金制度、日本版401Kでは個人が投資の商品を選択して運用しなければなりません。自分のことは自分で責任を取らなければならない時代が訪れました。それゆえ、自分自身を守るためにも投資を実行できる知識や能力を身に付けることが急務であろうと考えて教育にも生かすことが重要だと考えています。学生にとっては会社を評価する能力を身につけることは自分で経営をするにしても、あるいは企業などの機関に就職するにしても必要な事項であると思います。正しい金銭感覚は子供の時から身に付けるのが好ましいと考えていますので、本当は小学生からの教育が最も大切と思っています。



■プロフィール

九州大学大学院経済学研究科
博士課程単位取得 経済学修士
専門分野 / 経営財務論、証券論
大学院流通科学研究科長(大学流通科学部教授)
佐賀大学名誉教授(元佐賀大学経済学部長)

小学校での英語教育

大学 栄養科学部 講師 福田 慎司

日本は現在小学生への英語教育がブームのようです。大きな書店に行けば、小学生向けの本、CD、DVDなど英語教材がコーナーの一角を占めているのを目にします。このブームの要因の一つとして、2002年度に始まった新学習指導要領(総合的な学習の時間の一環というただし書き付きではありますが)によって公立小学校で英語教育の道が開かれたことがあげられるでしょう。現在、大部分の小学校(昨年度は全国の88%)でなんらかの形で英語に関する授業が導入されています。小学校の実践報告では、歌やゲームで英語に親しみ、外国の文化を楽しく吸収している子ども達の様子が数多く報告されています。

保護者の意見や世論では、小学校での英語教育については賛成派が反対派よりもおおむね優勢のようです。おそらく、これまでの日本の英語教育が十分に効果を上げていないという思いがあり、そこから来る苛立ちと小学校英語による日本人の英語力向上への期待がそうさせているのだと考えられます。しかし、もしそうだとすれば小学校への英語教育の導入が本当に期待するほどの日本人の英語力向上に結びつくのかという点をもう一度冷静に考えてみる必要があるでしょう。

私は小学校への英語教育導入については基本的に賛成ですが、小学校の英語が日本人の英語力向上の鍵となるかどうかについては、実際にはそれを左右する様々な問題について考える必要があると思います。例えば、1クラスのクラスサイズの問題です。欧米の小学校では1クラス25名を越えることはまれですが、日本では40名近くの児童がいることも珍しくありません。また、小学校英語のメリットとしてよく音声面があげられますが、例えば現在多くの小学校で行われているように、月に数回程度の授業でも期待するほどの音声面での効果がみられるのでしょうか。特に、小学校で児童に

適切に英語を指導できる教員の確保は大きな問題ではないでしょうか。現在、小学校の教員は大学の教職課程で小学生への英語教授法の指導を受けていません。専門の英語教師やALT(外国人指導助手)が行っている中学校での英語教育が仮に十分でないとして、中学校の倍の数がある小学校で成果を過度に期待するのは妥当でしょうか。小学校で成果を上げるためには、教員の育成やその教員に対する研修、教材の開発も早急に必要となるでしょうが、それらにかかる費用に対する予算は十分なのでしょうか。

大学まで学校で習っても日本人は英語を使えないとよく言われますが、それは小学校から始めなかったからではなく、一般的に日本では日常生活において英語を必要としていないということが大きな要因だと考えられます。本格的に英語が必要となるのは留学や仕事上の必要性が生じた場合が多く、その際求められるのはかなり高度な英語力です。それならば小学生の間は成果に期待するのではなく、人前で大声を出すことや間違いを気にしないなどという利点を生かし、英語に親しんだり外国への興味・関心を持たせたりすることに徹し、必要性が最も高まる大学以降に各自の目的に応じ集中的に学習するといった英語教育のシステムも考えられるかもしれません。

小学校から英語を導入するのであればその長所・短所を冷静に論議し、小学校から大学までの英語教育全体のプランをしっかりと考えることこそ日本人の英語力向上にとって大切ではないかと思います。



■プロフィール

東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程英語教育専攻修了。花園大学専任講師などを経て2002年より現職。専門分野は英語教育学、英語スピーチ・コミュニケーション、ESP。現在の主な研究テーマは、「大学の専門英語教育を背景とした実践的ESP指導法の開発」。大学英語教育学会、日本時事英語学会、日本比較文化学会会員。

平成17年2月3日福岡市地下鉄七隈線開業!

福岡市地下鉄の七隈線(天神南～橋本間、11.7km、駅数 16駅)が、平成十七年二月三日に開業しました。七隈線は、これまで軌道系交通機関がなかった福岡市の西南部と都市部を結ぶ路線として計画され、平成八年末に着工されました。七隈線の新型車両3000系には、急曲線・急勾配に対応した鉄車輪リニアモーター方式が採用されており、またワンマン全自動運転のため、走行位置をランプで示す電子式路線図や、次の停車駅名を表示する電光掲示板、動画映像を放映する液晶テレビモニターが備付けられています。

本学への最寄駅は、別府駅で、都心部の薬院駅からは約六分、天神南駅からは約九分と、朝の通学も渋滞なしで大変便利になりました。開業初日の二月三日は、本学短期大学の試験入学生選考日で、早速、地下鉄を利用された受験生が数多く見られました。

なお、別府駅構内の上下線各ホームには本学(大学・短期大学部)と女子中・高校の電照広告を掲示しています。



● 地下鉄路線図



▲ 別府駅 1番出入口



▼ 別府駅構内の電照広告



● 七隈線の新型車両3000系

クリーンキャンパスキャンペーン



クリーンキャンパスキャンペーン キャッチコピー

【優秀賞】

- 「気持ちいいね 心もさわやか きれいな教室」
(大学 人間発達学部2年 近藤 麻未さん)
- 「ボイ捨てで汚しているのは あなたの教室・あなたの心」
(大学 栄養科学部3年 平野 道子さん)
- 「立つ時 ゴミ残さず!」
(短期大学部食物栄養科 小田 隆弘 教授)

教室内に放置されているゴミを何とかしようという試みで学友自治会執行部が主体となつてはじめて美化運動クリーンキャンパスキャンペーンも三年目になります。

本年度も学生一人ひとりの美化意識向上を目的とし、昨年の十月十八日～十一月十二日までのキャッチコピー募集と十一月八日～十一月十二日までの学内清掃活動を行いました。お陰様でキャッチコピーは、学生・教職員の皆さんから九十二通という多くの応募をいただきました。

キャンペーンの一番のメインである学内清掃活動には、初の試みとして各教室にほつき・ちりとり・雑巾を設置し、多数のサークル部員、教職員、個人参加の学生と自治会執行部役員が一緒になつて教室の清掃を行いました。また、清掃後チェックシートを配布し、今後の美化活動のあり方について意見を求めたところ、こちらにもたくさんの方の提出がありました。この運動をよりよいものにしていくために、こうした一つ一つの意見を大切にしていきたいと思っています。

平成16年度後援会地区連絡会のお知らせ

地 区	開催日	会 場
北九州	2月20日(日)	リーガロイヤルホテル小倉
長 崎		セントラルホテル佐世保
宮 崎		ホテルJALシティ宮崎
佐 賀	2月26日(土)	佐嘉神社記念館
大 分		トキ八会館
熊 本	2月27日(日)	熊本交通センターホテル
鹿児島		ブルーウェーブイン鹿児島
福 岡	3月5日(土)	本学

当日のスケジュール

12:00～	受 付
12:20～	ビデオ(DVD)上映
13:00～14:45	全体説明会
14:45～16:30	個別面談

詳細につきましては、
本学庶務課までお問い合わせください。
☎092(851)2559(直通)

平成十六年度の後援会地区連絡会を、本学を含め九州内の八地区で開催いたします。連絡会では、在学生の保護者を対象として、本学の教育研究の近況報告とともに、在学生の履修面・生活面・就職状況に関する全般的な報告と説明のほか、卒業生・卒業予定者)による就職体験談、教員による個別面談等が行われます。

各地区の開催日及び会場は、次のとおりです。

11 / 14 第3回薬膳公開講座

本学の薬膳科学研究所主催の第3回薬膳公開講座、テーマ「食べて学んでヘルシーライフ」が、福岡市博多区のパピヨン24・ガスホールにて開催された。(後援:駐福岡大韓民国総領事館、中国駐福岡総領事館、福岡県工業技術センター)公開講座の第一部では、上海中医薬大学 朱 根勝講師による講演「中国における養生法について」、第二部では産業医科大学臨床疫学研究所 徳井教孝講師による講演「食生活と養生」並びに本学栄養科学部 三成由美教授による講演「便秘改善の薬膳」が行われた。



11 / 27 アジア栄養科学ワークショップ

本学大学院の栄養科学研究科及び栄養科学研究所主催の「第13回アジア栄養科学ワークショップ」が、「保健機能食品の開発研究」をテーマとして、西1号館10階大講義室で開催された。藤本学長の挨拶に続き、研究科長の太田英明教授が本テーマのねらいを、イントロダクトリー・リマークスとして話題提供後、吉岡慶子教授の座長で、東京大学大学院農学生命科学研究科の清水誠教授(わが国における機能性食品の研究開発の動向)、台湾大学大学院食品科技研究所の江文章教授(Recent trend of research on healthy foods containing Hatomugi in Taiwan)ならびに京都府立医科大学大学院医学研究科の西野輔翼教授(食品成分と発ガン抑制)の順に、含蓄深い講演が行われた。引き続きパネルディスカッション形式の総合討論では、会場からの質問も交えた熱心な討議がなされ、わが国の保健機能食品の研究が国際的にも高い水準にあることが紹介された。



12 / 15 第1回流通科学研究科セミナー

本学の大学院流通科学研究科主催の第1回流通科学研究科セミナーが、西4号館2階大講義室にて開催された。このセミナーは、平成14年度から開催していた「流通科学部セミナー」に変えて開催されたもので、企業関係者をはじめ、官公庁、大学、一般の方々などを対象としている。今回のセミナーでは、講師として(株)博多大丸 取締役社長 北野 洋氏をお招きし、「福岡商圏と流通小売業繁栄・発展について考える」をテーマとした講演が行われた。また、講演に引き続き、講師や参加された方々、本学教職員との交流も行われた。



10 / 5 食物栄養科特別講演会

短期大学部食物栄養科主催による特別講演会が、西1号館10階大講義室にて開催。中村良三氏(テレビ西日本客員解説委員)より、「いま、なぜ食と農の共生が必要なのか - 飽食日本の裏側 -」をテーマに講演が行われた。食物栄養科の学生のほか多くの教職員が参加し、ジャーナリストから見た「食の問題」に対し熱心に聴講した。



10 / 31 ~ 11 / 2 学園祭



第37回霜月祭は、10月31日(日)~11月2日(火)の3日間、「Andante~あせらずゆっくり…」をテーマに開催された。今年の企画としては、毎年恒例のサークルやゼミによる研究発表、作品展示、模擬店のほか、ミュージシャン(D-51)によるライブやミスキャンパスコンテスト、お化け屋敷など盛りだくさんの内容で、地域の方々にも楽しんでもらえた学園祭となった。

11 / 13 留学生交流行事

11月13日(土)晴天のなか、恒例の留学生バスハイクが行われた。今年は留学生25名が参加し、佐賀県富士町の北山湖畔にある中村学園セミナーハウス「ほくさん」に向けて出発。バスの中で楽しくおしゃべりをしたり、窓の外の黄色や赤色に染まった美しい紅葉を眺めているうちに到着。早速北山ダム周辺を散策したり、貸しボードを漕いだりして思い思いに日本の秋を満喫していた。昼食のバーベキューには、ちょうど中村学園創立50周年祝賀会出席のために来日されていた遼寧中医学院職業技術学院の張慶豊学院長と季恵斌副学院長も参加され、留学生と楽しく歓談されていた。最後は、セミナーハウスの近くにある古湯温泉へ。留学生達は大好きな温泉でゆっくり体を温め、日頃の勉強と生活の疲れを癒していた。参加した留学生からは、「本当に楽しかった。」「来年も是非また行きたい。」「大変好評で、日本文化に肌で触れ、留学生同士の交流も一段と深まった1日となった。」



表彰のお知らせ

【非破壊計測シンポジウム(日本食品科学工学会)ベストポスター賞】

短期大学部食物栄養科の寺澤洋子助教授が、平成16年11月24～26日につくば市で開催された第20回非破壊計測シンポジウム(日本食品科学工学会)において、ベストポスター賞を受賞した。このシンポジウムでは農産物や食品、医薬品などの成分や品質管理を無侵襲で分析する研究について多くの報告が行われており、今回、寺澤助教授は「NIR分光法を用いたデンプンの温度変化による水和状態の解析」についてポスター発表を行った。



寺澤 洋子 助教授
(短期大学部 食物栄養科)

【国際公会計学会(日本学術会議第19期登録学会)2004年度学会賞】

短期大学部家政経済科の宮地晃輔助教授が、国際公会計学会2004年度学会賞を受賞した。受賞にあたっては、論文「環境管理会計におけるライフサイクル・コストの論点 — 公的部門におけるグリーン購入との関係において — (公会計研究第5巻第1号)」が、審査対象となった。本論文では、環境管理会計(environmental management accounting)におけるライフサイクル・コスト(Life-Cycle Costing:LCC)に関する基本論点を国・自治体等の公的部門が行うグリーン購入との関係において提示し、当該論点を議論するためのフレームワークを示した。



宮地 晃輔 助教授
(短期大学部 家政経済科)

【特定非営利活動法人日本栄養改善学会 奨励賞】

平成16年10月、短期大学部食物栄養科の内田和宏助手が、特定非営利活動法人日本栄養改善学会奨励賞を受賞した。受賞対象は、「中高年齢者の骨密度の実態とその関連要因に関する研究 - 久山町における栄養疫学研究 -」。高齢社会を迎えて社会的な問題となっている中高年齢者の骨粗鬆症について、久山町における2001年成人健診受診者の1,736名を対象に、骨密度と生活習慣等の成績を用いて、骨密度(超音波法による音響的骨評価値;OSI)に影響を及ぼす要因を検討した。男性ではカルシウムの摂取に関する項目でOSIと関連がみられ、女性では身体活動に関する項目や、社会的ADLに関する項目でOSIと関連がみられた。



内田 和宏 助手
(短期大学部 食物栄養科)

【日本清涼飲料研究会賞】

栄養科学部の太田英明教授ならびに石井利直助手(併任講師)の両氏が、平成16年10月27日、日本教育会館の一橋ホールで開催された第14回日本清涼飲料研究会において、同研究会の最高賞である研究会賞を受賞した。この賞は該当なしの年度もあり、今回の受賞は「コーヒー抽出液の味覚と内容成分の関連研究」に関する一連の研究内容が対象となったもの。これまで、コーヒーに関する研究は生豆、焙煎豆を対象にした研究が多く、実際に飲食するコーヒー抽出液のうまさ(香り、味など)を対象とした研究が少なかった。当該する研究のうち、嗜好の原点を探る科学的知見の蓄積が高く評価されたものである。両氏は、さらにコーヒー飲料の生理機能に関する研究は、本学の栄養科学部の研究者が最も得意とするところであり、さらに共同研究によって研究の進展が望めると期待している。



太田 英明 教授
(大学 栄養科学部)



石井 利直 助手
(大学 栄養科学部)

【日本缶詰協会技術賞】

栄養科学部の太田英明教授が平成16年11月11日に浜松で開催された(社)日本缶詰協会技術発表会において、平成16年(2004年度)日本缶詰協会技術賞を受賞した。同協会はわが国の食品加工産業に関わる技術研究およびその普及に長年に亘って貢献してきた著名な協会でもある。受賞対象は、機能性食品を創出する基盤技術の一つである「セラミックMF(精密ろ過)膜によるパーシャル分解ペクチン含有清澄果汁の製造」に関わる研究で、その技術的な研究内容が高い評価を得たものである。現在、食品加工産業の中核技術となっている膜技術に関して、同氏は飲料分野における応用研究を長年に亘って積み重ねている。



太田 英明 教授
(大学 栄養科学部)

【社団法人全国栄養士養成施設協会表彰】

平成16年11月、栄養科学部の林辰美助教授が、社団法人全国栄養士養成施設協会から表彰を受けた。この表彰は、永年にわたり栄養士・管理栄養士養成施設において教育に尽力され、多大な貢献をされた教員に対し贈られるものである。



林 辰美 助教授
(大学 栄養科学部)

税理士試験結果報告

本学流通科学部第一期生(平成16年3月卒業)の河内美保さんは、本年度の税理士試験の科目合格「財務諸表論」平成16年12月10日発表を果した。河内さんは在学中、流通科学部の藤川ゼミで簿記会計の習熟に没頭し、また、簿記クラブの副部長としてもリーダーシップを発揮した。性格は温和であるが内に並々ならぬ闘志を秘めた「中村なでしこ」でもある。後輩の皆さんも河内さんに続こう！(大学 流通科学部 講師 藤川 祐輔)

教員の出版物

著者は、本学教員のみ記載。()内は出版社、発行年月

環境自治体ハンドブック



小阪 康治 編著
短期大学部
家政経済科 教授
(西日本新聞社
平成16年3月)

家族援助論

- 保育者に求められる子育て支援 -



那須 信樹 編著
短期大学部 幼児保育科 助教授
森 康博 共著
短期大学部 幼児保育科 教授
山崎 篤 共著
短期大学部 幼児保育科 講師
(保育出版社
平成16年10月)

教職員の動き

退職人事(平成16年12月31日付) 助手(大学) 古川 えりな
(平成17年1月31日付) 法人本部総務部課員 比山 つばみ
配置換え人事(平成17年2月1日付) 法人本部総務部課員 島田 恵
(教務課課員)

研究助成・受託研究等採択状況

平成16年度課題研究調査研究費(社団法人全国保育士養成協議会)効果的な保育実習のあり方に関する研究Ⅱ — 保育実習指導のミニマムスタンダード確立に向けて

研究者 那須 信樹 助教授(短期大学部 幼児保育科)
交付金額 2,300,000円

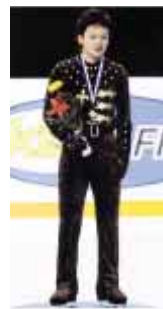
本研究は、全国の保育士養成の場で展開されている臨床的な経験知を背景とした実践例と、保育士の専門性と近接する職種における実習の態様との比較をもとに、保育実習において育成・深化が期待される保育士の公共的使命や専門性の内容の解明と構造化に努めるとともに、事例研究の手法をもって保育実習指導の「ミニマムスタンダード」モデル策定への具体的接近を試みたものである。



那須 信樹 助教授
(短期大学部 幼児保育科)

フィギュアスケートジュニアグランプリファイナル2位の快挙!

昨年12月2日～5日、フィンランドのヘルシンキで開催されていた「フィギュアスケートジュニアグランプリファイナル」に本学流通科学部1年生の南里康晴君が出場した。ファイナルは、1年に8大会あるジュニアグランプリシリーズの上位8選手だけが出場できる大会。南里君は、第1日のショートプログラムでトリプルアクセル(3回転半ジャンプ)を出場選手中ただ一人成功させ、首位に立った。最終日のフリースケーティングでは惜しくも3位となったが、総合で堂々の2位と素晴らしい成績を収め、ファイナルでは日本の男子として初のメダルを獲得した。



編集

中村学園大学 中村学園大学短期大学部 学長事務室

発行日

平成17年2月5日

〒814-0198 福岡市城南区別府5-7-1 TEL.092-851-2531
〔ホームページアドレス〕<http://www.nakamura-u.ac.jp/>

福岡市地下鉄七隈線「別府駅」

— 広報誌セロリの定期購読について —

個人で定期購読をご希望の場合は、購読料(2 年分)として郵便小為替 1,200 円分と、郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号を書いた紙片を同封の上、学長事務室宛にお送りください。なお、広報誌の発行は、年 4 回(4・7・10・1 月)となります。

申込み先

〒814-0198 福岡市城南区別府5-7-1
中村学園大学 学長事務室 「広報誌定期購読申込」係